



理事長就任挨拶

野村 正勝*

Key Words : A greeting from the chairman of board of directors

昨年の夏は天神祭りの「船渡御」で阪大船が組織されまして私も乗船いたしました。宮原総長そして熊谷、金森歴代総長を始め多くの名誉教授、現役の先生方の乗船で「帰ってきました大阪大学」を合言葉に水の祭りで大いに大阪大学をアピールしました。

私は一昨年(2004)の3月末で工学部を退官いたしました。その直後に独立法人化がスタートしました。前年の平成15年にはこの法人化に間に合うように全学の安全管理が見直され、諸設備の整備がなされました。その後工学研究科では8つの大きな専攻グループと特色ある2つの従来スケールの専攻からなる10専攻体制になりました。これは将来の異分野融合、新領域研究、複合技術展開を可能にするためであると聞いていますが、これにより新しい産業の種を生み出す有効な組織づくりに成功されたのではないかと考えています。一方教育に関しては大学院にビジネス・エンジニアリング専攻を設置し、専攻を終えた学生が経営学専攻のMOT(Management of Technology)に進学すれば1年間で経済修士号が取得できるシステムを生み出しています。また全学の研究教育組織としてコミュニケーション・デザイン・センターが開設され、「専門的知識を持たないものや利害の立場の異なる人々をつなぐコミュニケーション回路を構想・設計」する教育がスタートしています。これは工学倫理の実践面で深く関係してくる技術なのです。そのほかFD(Faculty Development : 大学教授団の資

質開発)への取り組みもスタートしています。いわゆる教育の質の向上です。財政的には国の財政逼迫を背景に年々厳しくなるため外部資金の獲得が大学では大きな課題となっています。そのために産学の連携がどの大学でも検討されており、工学研究科では平成15年に社会連携室ができています。これまでのような個人と企業という形を超えて、例えば工学研究科と企業とで包括的な契約を結ぶといった方向で、まず交流会を開催し、次いでテーマ検討ワーキングを開き共同研究に結び付けていく形です。こうした数々の変革はこれまで私たちが経験したことがなかったほどの大きな改革と言えます。こうした取り組みの成果は、少なくとも5年以上の単位で評価されるべきものと思われま

さて生産技術振興協会は大阪府所管の社団法人として、大阪大学の各研究科および各研究所・研究施設に依頼される生産上の研究の斡旋をすると同時に、「生産と技術」という季刊誌を発行し、150社に及ぶ企業会員と学内の教官に配布し大学内の研究と教育や動向を学内外に知っていただく努力を重ねて参りました。また一年に一度ハイテクセミナーを実施し、新年には新春トップセミナーを開催し産業界のトップの方々や、また多くの先生方にもご参加いただき、産と学の交流に努めてきました。こうした取り組みにより当社団法人はこれまで大学の研究と教育を側面から支えてきたという自負をもっていますが、上に述べました大学の大きな変革期に遭遇し、新しい役割も視野に入れなければなりません。幸いその長い歴史から当社団法人の存在意義を大阪大学の経営陣の方々からも認めていただいております。これまで以上に務めていきたい所存です。

昨年末に事務所を大阪商工会議所に移しましたが、どうか先生方には色々お知恵を貸していただき、今後とも旧に変わりませずご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



* Masakatsu NOMURA
1940年6月生
昭和44年大阪大学大学院工学研究科応用化学博士課程修了
現、(社)生産技術振興協会、理事長、工学博士、応用化学
TEL 072-758-4995
FAX 072-758-4995
E-mail : MasaFnomura@aol.com.